



TITLE:

博物館にフーコー振子が出来た

AUTHOR(S):

---

CITATION:

博物館にフーコー振子が出来た. 天界 1934, 14(158): 292-292

ISSUE DATE:

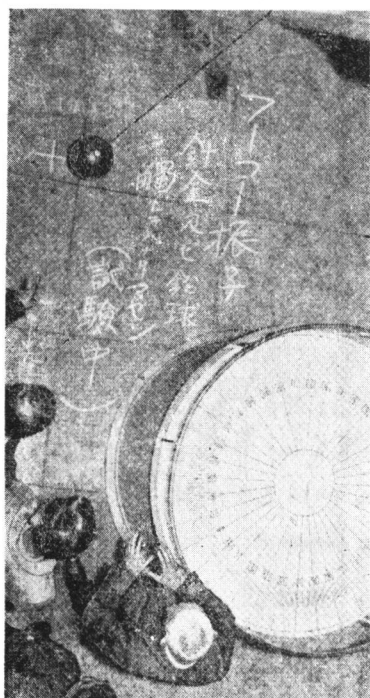
1934-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165537>

RIGHT:

## 博物館にフーコー振子が出来た



東京の科學博物館に去る 4月21日からフーコー振子が公開されることになったといふ。フーコー振子とは、言ふまでもなく、地球の自轉を實驗證明する仕かけであつて、西曆1851年に佛國の物理學者 Foucault が考案し、各所で實驗したが、中でも最も有名なのは、パリ市のパンテオンのドームから長さ 69 メートルの振子を吊し、一般の觀衆に見せたことである。今は、地球の自轉することを、小學の兒童でも知らないものはないが、之れを目前に實驗して見せるためには、フーコー振子は有名なもので、外國では學校や博物館あたりに多く此の設備をしてゐる。〔天界〕

第 134號に 廣島文理科學大學の中村氏が此のフーコー振子を寫眞的に實驗された報告が載つてゐるから、是非見ていただきたい。

## 花山天文臺を拜觀して

世は <sup>そら</sup>ねしづまつた 蒼穹 の さえ  
星 の きらめき 振子 の 音  
<sup>はだれ</sup>斑雪 <sup>あさかげ</sup>高嶺 朝 光に 驚啼いてゐる

旅中大阪にて

廣 瀬